

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書

令和4年1月24日（月）作成

校長 中村 裕司

記述者 職名（教頭）花形 一満

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び よく考える子ども（かしこさ）
- 徳育 ・思いやりのある子ども（やさしさ）
- 体育 ・健康でたくましい子ども（げんきさ）

学校経営方針

基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

- 職員の自己評価、児童及び保護者へのアンケートの概要は概ね次のようにまとめることができる。
- ・本年度の学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて具体的な取り組みについて提案し、一人ひとりの教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより本校の総合評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- ・それぞれの学年経営方針に基づいた適切な学年教育目標が設定され、その実現に向けて適切な学年・学級経営が行われていると考えられる。
- ・学習指導については、概ね肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら基礎・基本の定着を図る授業を行っている様子がうかがえる。また、教師が自らの指導のねらいに応じて児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に活かすという指導と評価の一体化した授業ができていると考えられる。
- ・生徒指導については、全体的に肯定的な評価になっている。キャリア教育については教育課程に位置づけてから時間が経過してきているが、その内容をきちんと踏まえた上で児童の社会的・職業的自立に向けて、能力や態度を育てる教科指導や生活指導を行って行くことが必要である。これからも、児童一人ひとりに目を向けながら児童理解に努め家庭とも連携を図り、問題行動の早期発見・早期対応を心がけて日々児童の指導にあたっていきたい。
- ・本校のP T A活動や地域との連携について肯定的な評価が多く、学校側からも情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができているといえる。さまざまな場面で地域の方々にご協力いただき貴重な体験をさせていただいているが、さらに内容を検討したり教材開発をしたりすることを日頃から心がけていきたい。保護者からの要望等の情報収集については、これからも積極的に行うよう心がけていきたい。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の経営方針の下、教職員が共通意識をもって学校教育目標の達成に向け教育活動を行っていることがわかる。 ・小さい規模の学校であるため、複数の校務分掌を受け持つ状況であるが、情報交換を密に行い、それぞれの分掌を計画に沿って実施することができた。全体的には、意識を高くもって取り組んだ様子が表れている。 ・日常の学習活動や学校行事を進めるにあたり、PDCAサイクルを意識して教育活動を行っていることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の指導に担任だけでなく、「チーム敷北」として全教職員で敷島北小の子ども達を育てていることを教職員一人一人が常に意識し共通理解のもと児童の指導にあたり、学校教育目標の実現を目指していく。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価では、全体的に肯定的な評価が多く、教職員一人一人が主体的に学校運営に参画していることがわかる。 ・学級担任と非常勤講師・市支援員・学力向上スタッフとが協力し合い児童の実態に応じた個の指導を丁寧に行っている。 ・「危機管理マニュアルを理解している」の項目では、A とてもそう思う 47.6%・B そう思う 52.4%と肯定的な評価であるが、他の項目と比べると A 評価が低い。 ・保護者アンケートの「児童にとって学校は楽しいところだ。」「学校は熱心に授業に取り組んでいる。」「相談できる先生がいる。」の項目で肯定的な評価がほとんどだった。学校と家庭が連携してより良い学校運営を行っていることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの理解に関しては、いかなる場合においても適切な判断ができるように、定期的にマニュアルを確認する機会を設ける。また、避難訓練や防犯訓練など危機管理マニュアルに沿った実践的な訓練にしていく。 ・これからも全教職員の共通理解のもと児童のより良い成長を目指し教育活動を進める中で学校の様子をこまめに知らせながら家庭・地域に信頼される学校を目指していく。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が意識を高く持って、各教科の基礎基本事項の習得のための取り組みや家庭との連携に積極的に取り組んでいることがうかがえる。 ・特に、児童アンケートの「授業は楽しいですか」「わからないことがあったら、先生に聞いていますか」の項目で昨年度より改善されている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想の一人一台端末の推進を受け、今年度、校内研究で「ICT等を効果的に活用した指導法の工夫」に取り組んできた。これからもさらに研究を進め、タブレットを活用した児童の個別最適な学び、協働的な学びを進めていきたい。 ・児童アンケート・保護者アンケート共に、昨年度と比べ家庭学習の定着が見られた。学校での取り組みが効果を上げてきていると感じる。引き続き、職員間の共通理解を図り、今後も更に家庭と連携を深め、指導を継続し、この項目の結果を見守っていく。定着を図るために、学習内容や家庭への発信方法の工夫、児童への評価も含めて取り組んで行く。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価では、生徒指導全般について、肯定的な回答が多く、教職員は意欲的に取り組んでいる。 ・児童アンケートでは、生徒指導の項目として、「人が困っているときは進んで助けているか」「学校のきまりや約束事を守っているか」「清掃活動をしっかり取り組んでいるか」の項目で肯定的な評価が90%以上であった。一方「誰とでもあいさつしているか」「将来の夢や希望を持っているか」の項目では、肯定的な評価が80%台にとどまった。 ・児童アンケートの「困った事があったら相談できる先生がいますか」では、肯定的な評価が84.2%であった。一方で、「あまりいない」「いない」との回答もあり、看過できない。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「規範意識を育む指導」「問題行動の早期発見・早期対応」については、引き続き職員間の共通理解を図りながら、全校体制で粘り強く取り組んでいく。 ・「あいさつ」については、現在も取り組んでいるが、児童会活動などの児童が主体的に取り組める活動をさらに意識して進めていくと共に、地域の方へのあいさつも向上していきたい。 ・キャリア教育については、これからも教育課程に位置づけられた全体計画を意識し、学年ごとの年間指導計画に応じ、校外学習や体験活動を重視しながら学校教育全体で行われるようにし、キャリア発達をめざす。 ・家庭や関係機関との連携がより図られるよう、情報の共有化を意識しながら生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。 ・日頃から共感的受容の態度で児童に接し、さらにアンテナを高くし、児童の良き相談者たるべき姿勢を持ち続けていきたい。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価においては、地域との連携について、全ての項目で90%を上回り評価が高い。 ・保護者アンケートによると、92.5%の保護者が、「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」と答えている。 ・一方「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」では、79.1%と昨年度より低い評価となっている。 ・本校はPTAのOBが中心となるおやじの会や母親の会の学校への協力もあり、地域連携がより良く推進されていると捉えている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部会や家庭訪問、個別懇談等あらゆる機会を利用し、情報を共有するだけでなく、PTA委員会、学年PTA総会や地区懇談会、学校評議委員会、関係者評価委員会などで、保護者や地域の意見を積極的に取り入れていきたい。 ・学校だよりや学年だより、授業参観や学校行事、ホームページを使って、これまでどおり学校の教育活動を地域や保護者に知らせていく。
VI 学校の特徴に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の「学校行事や児童会活動に児童が進んで取り組むよう指導」「業前タイムを授業として有効活用」の項目について高い評価となった。 ・児童会活動の一つである子ども達同士が様々な事柄の感謝を伝え合う「感謝の実」の取り組みでは、全校児童の親和性を高める素晴らしい取り組みであるとともに、自己有用感や自己肯定感の育成にも役立っている。 ・保護者アンケートの「学校は学校行事や児童会行事に力を入れて取り組んでいる」について、83.5%の方に肯定的な回答をいただいた。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、コロナ禍で学校行事や児童会行事、業前の活動が、中止または制限される中、感染対策をとりながら、工夫してできることを考え、行ってきたことが評価されたと考えている。これからも児童の豊かな人間性の発達を目指し、学校行事や児童行事等も含めた学校活動を充実したものにしていきたい。
Ⅶ 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の結果として、「積極的な読書活動の取り組み」「児童の実態に則した道徳の指導」「児童の体力向上や健康指導」全ての項目で、高い評価となった。教職員が日頃から創甲斐教育に積極的に取り組んでいることがわかる。 ・児童のアンケートでは、81.3%の児童が「読書が好き」と答えているが、読書量・質に個人差が見られる。「まったく読まない」と回答した児童が5.9%もいることは課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に関しては、引き続き、図書だより等で保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。また、図書委員会が中心となり、業前タイムを活用しての読書タイムや本の紹介など児童が積極的に読書に親しむ取り組みを進めていく。 ・道徳教育については、これからも児童の実態の理解に努め、教職員で目指す児童像を共有しながら、道徳の授業を中心に学校教育全体を通して児童の道徳性の育成に取り組んでいく。 ・体力向上への取り組みは、北小タイムでのたてわり遊びやドッジラリー等の活動やいきいき人材活用事業での専門性を持った講師による体育の授業などの取り組みをこれからも継続していき、さらなる児童の体力向上を目指していきたい。
<h3>3 まとめ</h3> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針、学校教育目標の全職員の共通理解のもと、適切な学校運営ができている。 ・保護者、地域と学校が良好な関係を築いている。学校・家庭・地域の連携協力のもと児童の生きる力（知・徳・体）の育成を目指し、学校教育活動が推進されている。 ・教育活動全般にわたり、まじめに取り組む児童が育っている。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の課題を把握し改善に向けた取り組み ・ICT を効果的に活用した授業改善 ・児童の実態に応じたキャリア教育の充実 ・地域の人材や施設を活用し、地域教育力を活かす指導 	